

# 2月 県議会ニュース 日本共産党県議団 です

2月県議会(2/16~3/16)が開かれました。

**和田あき子**議員が一般質問を行いました(3月1日)。

一般質問と答弁の要旨を紹介します。



## ※生活保護と生活困窮者支援について※

**和田議員** 生活保護基準は3年間で段階的に引き下げられ、保護費は平均7.3%、最大10%のダウン。民医連の実態調査では、いっそう深刻さを増している生活保護受給者の生活実態が明らかにされた。県は受給世帯の実態を捉えているのか。

**健康福祉部長** ケースワーカーが家庭訪問し、支援団体との意見交換でも現場の実情を聞くよう努めている。

**和田議員** 反貧困ネットなどに寄せられるホームレス支援の相談では、住宅がネックになり苦労しているという。行政として緊急の住宅支援のためのシェルターの確保が切望されており、検討をお願いします。

**健康福祉部長** 生活困窮者自立支援では、家賃の費用支給と一時的宿泊場所提供の事業があり、生活就労支援センター「マイサポ」が相談支援をしている。効果的な住居支援に取り組みたい。

## ※大学進学のための経済的支援拡充を※

**和田議員** 今年大学に合格しながら入学金等準備できず進学を断念した生徒は何人いるのか。

**原山教育長** 生徒数は把握していないが、事例は承知している。

**和田議員** 入学料、前期分授業料と100万円近いまとまった資金を工面するための援助制度は少ない。県として進学・修学のための経済的支援の拡充を。

**県民文化部長** 本県では国に先立ち給付型奨学金を実施してきた。平成30年度から制度を拡充予定だ。

**和田議員** 埼玉県では高校生、保護者、教職員を対象に、大学進学のための経済的支援のガイド集を作成している。質問に先立ち長野県の各部局に確認したが、それぞれバラバラに制度が出てくる。県でも経済的支援を網羅したガイドを作成しては。

**原山教育長** ネットで情報にアクセスする環境が向上している。紙ベースのガイド作成は考えていない。

## ※子ども病院ドクターカー更新に県の支援を※

**和田議員** 県立子ども病院のドクターカーは、近隣県からの要請もあり、動く集中治療室として年間搬送400件以上。走行距離40万kmに達し、更新が必要だ。募金で1500万円集めると報道で知った。更新に5000万円かかるが、国・県とも補助制度がない。県から補助はできないか。診療報酬が不十分で不採算であれば、国に診療報酬の見直しを求めるべき。

**健康福祉部長** 県において購入費用の全額を貸し付け、償還額の2分の1を一般財源として支援している。1回の出勤・往診で診療報酬2万200円と不採算だが、病院決算は国庫補助や県の運営費負担金で黒字だ。

**和田議員** こども病院が募金に取り組みざるを得ない国の医療制度は冷たい。県も同調するのではなく、支援をしてほしい。

質問を終えて 和田あき子  
働いてもなかなかくらしは大変。年金は減るばかり。県民の不安に、くらし応援の県政をと質問しました。経済的な理由で大学進学をあきらめることがないように、県内大学等への進学・修学への給付型奨学金など前進面を、さらに拡充を求めていきます。